

【後述】

小説に後述とは些か奇妙であるが、一言添えたい。

本作品は、平成20年に房州日日新聞で連載された小説「春の國」の黎明編として書き下ろしたものの発表する機会もないまま置かれていたものを再校正したものである。

幸いなことに平成24年に募集のあった「雅出版大賞」にて、本作品は佳作を頂戴した。今回原稿はそれを新聞原稿に再構成するとともに、前期里見氏最後の当主・義豊にスポットをあて「なぜ、天文内乱に至ったのか」を、史料では読み解けない部分として思考を加えたものである。結果、この作品のオチが、前作「春の國」に結びつく構成となった次第である。

前作の黎明にあたる「犬掛の乱」を描く小説が世にないのは、恐らく里見氏という、「南総里見八大伝」以外には実像や事蹟さえ知られていない、名前くらいは一応わかるという程度という、不幸な一族ゆえとしか例えようがない。作家が調べようもなく、読者も知らない出来事は、総じて歴史小説としては、とかく敬遠されるものである。

現在、里見氏の子孫は「全国里見一族交流会」を結成し、更には「房州里見会」等々、各地で結束している。

不肖、当方もその根底となる作品の素案に携わり、「春の國」以降の時代、丁度、信長・秀吉・家康が活躍した頃の里見氏三代を、長編作品として既に構想を終えている。

本編は、それらの源流となるもので、畏れ多くも先述諸団体等のご理解を賜るものであることをここに申し述べる。

【参考文献】

- ◇「改訂関八州古戦録」
中丸和伯・校注
新人物往来社・刊
- ◇「房総 里見一族（増補改訂版）」
川名 登・著
新人物往来社・刊
- ◇「すべてわかる戦国大名里見氏の歴史」
川名 登・編
国書刊行会・刊
- ◇「安房妙本寺日我一代記」
佐藤博信・著
思文閣出版・刊
- ◇「房総里見水軍の研究」
千野原靖方・著
侖書房・刊
- ◇「企画展図録 里見氏と北条氏」
館山市立博物館・刊
- ◇「特別展 里見氏の城と歴史」
館山市立博物館・刊
- ◇「館山市の文化財」
館山市教育委員会・刊
- ◇「那古寺観音堂平成の大修理記念
観音巡礼と那古寺」
館山市教育委員会・刊
- ◇「きよなん歴史資料館」
鋸南町歴史民俗資料館・刊
- ◇「里見氏稲村城跡をみつめて・第五集
里見氏城跡（稲村城跡・岡本城跡）
国指定史跡記念」
里見氏稲村城跡を保存する会・編集発行
- ◇「戦国時代の山城 滝田城の史実に迫る」
御子神 勲・著
精文社・印刷
- ◇「久留里城誌」
久留里城再建協力会・刊
- ◇「市原の城」
小高春雄・編集発行
- ◇「地方別日本の名族 三・関東編Ⅰ」
新人物往来社・刊
- ◇「地方別日本の名族 四・関東編Ⅱ」
新人物往来社・刊
- ◇「地方別日本の名族 六・東海編」
新人物往来社・刊
- ◇「北条早雲のすべて」
杉山 博・編
新人物往来社・刊
- ◇「北条五代に学ぶ」
小山龍太郎・著
六興出版・刊
- ◇「さこみ物語」
館山市立博物館・編集発行

- ◇「古河市史 通史編」
古河市史編さん委員会・編集
古河市・発行所
- ◇「古河市史 資料 中世編」
古河市史編さん委員会・編集
古河市・発行所
- ◇「結城市史 第四卷 古代中世通史編」
結城市史編さん委員会・編集
結城市・発行所
- ◇「結城市史 第一卷 古代中世資料編」
結城市史編さん委員会・編集
結城市・発行所
- ◇「新立川市史研究 第九集」
立川市教育委員会・発行
- ◇「千葉県の歴史 県史シリーズ12」
小笠原長和、川村 優・著
山川出版社・刊
- ◇「足利將軍列伝」
桑田忠親・著
秋田書店・刊
- ◇「戦国合戦辞典」
小和田哲男・著
PHP文庫・刊
- ◇「中世都市鎌倉を歩く
源頼朝から上杉謙信まで」
松尾剛次・著
中央公論社・刊
- ◇「講談社カルチャーボックス77
鎌倉・歴史の散歩道
中世の香りを残す古都を歩く」
安西篤子・監修
講談社・刊
- ◇「歴史と旅臨時増刊号
戦国大名家臣団総覧
平成四年一月臨時増刊号」
秋田書店・刊
- ◇「歴史読本
特集 戦国の常識・非常識
2001年4月号」
新人物往来社・刊
- ◇「一個人
保存版特集・戦国武将の城入門
平成二二年九月号」
KKベストセラーズ・刊